



秋田大学教育文化学部附属小学校 校 報

# はとの子だより

No. 4 令和6年6月5日(水)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

## 新しい歴史をつくる第一歩 ～創立150周年記念はとの子運動会～



「附属小学校の150周年を祝う全校表現、祭り！」

威勢のよいかげ声がグラウンドいっぱいに響き渡りました。

1年生から6年生まで、この場面だけは学年も色も関係なく、はとの子として学校の150歳を祝う祭りを思い思いに表現しました。

大輪の花火や竿燈など、秋田の季節行事もふんだんに織り交ぜて、祝福の気持ちを精一杯体で表現した子どもたちの表情は満足感でいっぱい

いでした。

150周年記念のはとの子運動会で、何か新しい伝統となる取組をしたい。

この大きな節目の年に最高学年を迎えた6年生は、運動会という大舞台で全校をひとつにする表現活動を企画・運営しました。

前号でお伝えしたとおり、教育文化学部の松本奈緒先生にご指導いただいたことをきっかけとして、自分たちで振り付けを考案し、5年生以下の学年に手分けして指導に入り、後輩たちの取組状況に応じて振り付けを練り直すなどして、当日までまさに獅子奮迅の活躍を見せてくれました。

数週間の準備でここまでこぎ着けるのは、想像しがたいほどの苦労があったと思います。もっとうしたかった、まだまだやりたいことがあった、と感じている子どもたちも少なくなかったでしょう。

しかし、開会式で挨拶や宣誓をした6年生の代表児童の多くが口にしていた「先輩たちから受け継いだバトン」は、必ずや次の6年生、そしてまたその次の6年生へと受け継がれていくはずで

す。10年後、20年後に、この全校表現運動が受け継がれ、大人になったときに驚きや感動とともに後輩の取組を見ることができる、そんな息の長い活動に発展してくれることを願っています。

昨年度から始まったペア学年による趣向走も、上の学年の子どもたちによる発案と運営によって継承されています。お試しの時間に改善点を話し合い、それをペアの学年の授業中に伝えにいく様子も見られました。





「みんなのことはみんなで決める」はとの子の自主性が、回を重ねるごとに高まっている。たくさんのはとの子が主役になって活躍できる。子どもたちの領分がどんどん広がっています。

閉会式後、優勝を逃した黄組と青組の6年生の中には、悔し涙にくれる姿も数多く見られました。本気で勝ちにいった、その決意のありようを、最後の最後まで見せてくれました。

「努力は必ず実を結ぶ。決して無駄ではない」とよく言われます。この言葉が、この日の結果

だけで嘘だと決めるのはまだ早いでしょう。徒競走で満足のいく順位でなかったはとの子も、ペア種目で失敗してしまったはとの子も、色別対抗リレーで思うように走れなかったはとの子も、やはり努力は必ず実を結ぶのだということを忘れず信じ続けてほしいです。努力の結果は、この日に出るとは限りません。

新しい歴史の1ページを飾る、素晴らしい運動会にしてくれたはとの子たち、それを温かく見守ってくださったご家庭・地域の皆様に感謝してもしきれない1日となりました。ありがとうございました。



### 稲作りも遊びの延長 ～2年生活科で田植え～



2年生が生活科で田植えを再開して2年目を迎えました。実はこの取組、平成の始めに教育課程に位置付けられた「生活科」のモデル実践として、全国に広く知られた歴史ある本校独自の活動なのです。

しかし、今年度は、モデル実践が生まれた35～6年前とは違う趣向が施されていました。なんと、代掻きをどろんこ遊びと兼ねて実施したのでした。

ある程度泥を脚で掻き回した後、風船でつくったボールでドッチボールやバレーボールを楽しん

でいました。「う〇こ風呂だ～！」と悲鳴を上げていた子どもたちも、いつの間にか泥にまみれてボールを追いかけて回していました。

かくして、しっかりと攪拌された田んぼに、見事な稲がずらりと並びました。秋に黄金色に光る稲穂を刈り取る日を夢見て、2年生の学びが続きます。

### グリーンボランティアさんからのメッセージ

北階段の観葉植物「モンステラ」に、割と長めのカードが添えられていました。グリーンボランティアさんによるものです。鉢の中で根が密集したことによる「根腐れ」を、葉の変色で「助けて！」と知らせたモンステラになぞらえて、「みなさんも、困った時、悲しい時、周りの人に頼ることができる人になってくださいね。」とはとの子たちへのメッセージを投げ掛けてくれました。温かいお言葉、ありがとうございます。

